524
449

ロシヤ共産黨及び勞農政府の支那赤化對策に就て

始

久保田榮吉述　（第一編）

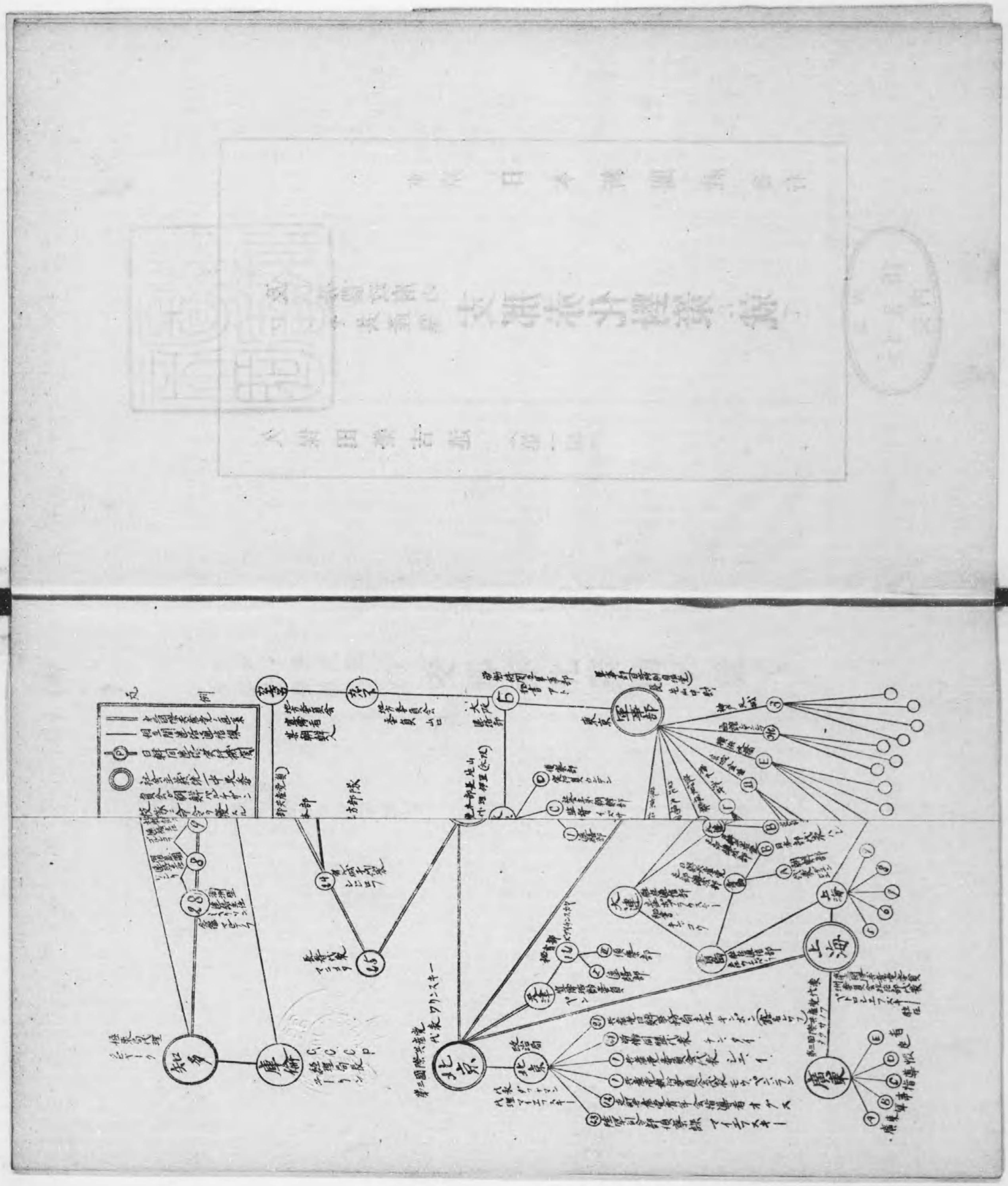
ロシヤ共産黨及び勞農政府の支那赤化對策に就て

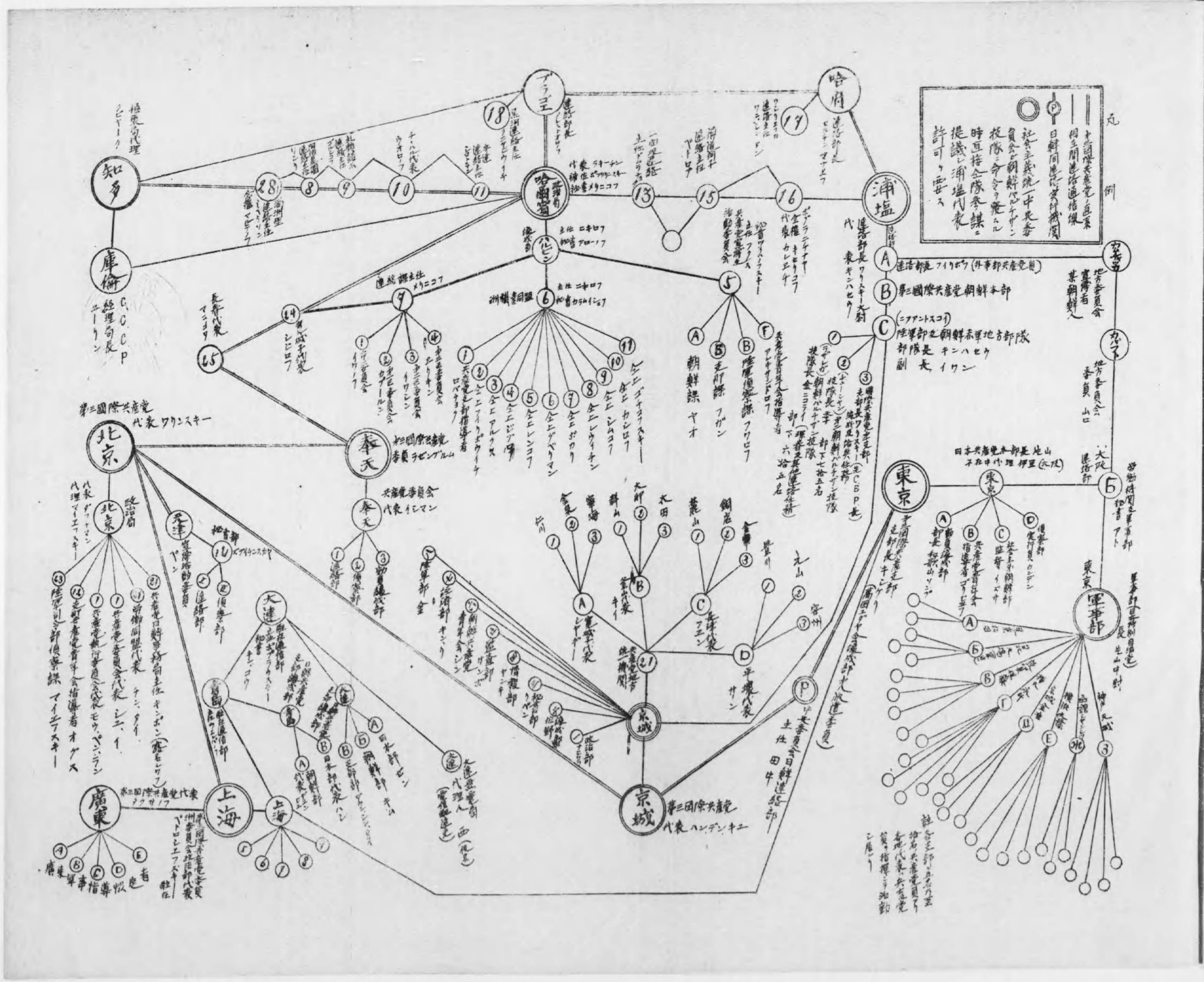
久保田榮吉述（第一編）

ロシヤ共産黨及び勞農政府の支那赤化對策に就て

東京　日本新聞社發行

大正
15. 3. 17
内交




凡例
日鮮同志諸氏ノ共産党ノ直系
社会主義統一中央委員会ノ朝鮮パルチザン
部隊ニ命令ヲ発スル
時互提携ノ提議ヲ浦塩代表
許可ヲ要ス
知多
庫倫
C.C.C.P
極東司令部
ハルビン
哈爾賓
ブラゴエ
浦塩
北京
奉天
大連
上海
廣東
京城
東京
軍事部
第三國際共産党
代表 ワクンスキー
代表 ハンデンキエ
第三國際共産党
代表 ラビンブルム
共産党委員会
代表 イシマン
第三國際共産党
代表 ヒンデンブルム
第三國際共産党
代表 ヒンデンブルム
第三國際共産党
代表 ヒンデンブルム

524-449

ロシヤ共産黨及び勞農政府の支那赤化策動に就て

初めに左の一言を特記して置く。

ロシヤ共産黨は、ソヴエート聯邦の獨裁者であり、主權者であり、而してその生命である。第三インターナショナルの巨魁、ジノーイエフの所謂『ソヴエートは體であり、共産黨は頭』である。ロシヤ共産黨の意思は、同時に勞農政府の意思である。兩者は異體同身の新妖怪である。故にロシヤ共産黨の對外策動は、同時に勞農政府の對外策動である。

既に識者の知る如く、ロシヤ共産黨の大理想は全世界の革命運動である。赤化である。その達成である。即ち、現制の全世界の國家組織を破壞し、彼等の稱する所謂『支配階級』を撲滅し、その階級の握りつゝある一切の權力、機關を奪回し、プロレタリヤート獨裁制のソウエート制なる共産インターナショナルたらしめんとするにある。

彼等は、この大理想を貫く爲めには、重り襲ふ難關をも蹴散らし突進すべく、また、いかなる犧牲を拂ふも斷じてヒルむものではないと豪語してゐる。而して、彼等はその目的達成の手段として、弱小民族に對しての獨立、解放運動の煽動、無產勞働階級に對しての反亂暴動の宣傳煽動の二大戰略を振り翳してゐるのである。

彼等は、歐洲大戰終熄の直後、强固なる陣容のもとにこの二大戰略を提げて、既に全世界に戰線を布いたのであつた。然れども、かつては歐洲大戰中に、彼等が獨墺を鎧袖一觸に屠つたその如くに、大戰終熄後の西歐諸國はたやすく崩壞しなかつたので、ここに大馬力を加へて、宣傳に煽動に裏面運動に、血眼になつて策動したが、西歐諸國はそれでも國礎の根幹に微動だも來たさなかつた。

彼等カムニストが常に『吾人は如何なる難關をも突破すべく、如何なる犧牲をも平然と拂ふ』と豪語しつゝあるのは、その目的達成の可能性が見える時であつて、如何に躍起となつても、目的達成は絶望の外なしと見られた場合は、彼等は、徒勞に終る愚な運動を歇めて、風の如く速かに、一と先づその陣容を改めるのである。

西歐方面に於ける赤化策動に失敗した彼等は、その陣頭に振り翳した赤旗を一と先づ卷いてしまつた。けれども、卷いた旗をそのまゝに放つて置く程、それ程に彼等は桃源の仙人ではない。旗を卷いたと思ふ間もなく、革命の巨頭レーニンは蹶然と起つて『世界革命は東洋よりすべし。その前

提として先づ支那の赤化に全力を注げ！』と激勵一番したのである。

巨頭の勵聲一と度響くや、ここに西歐方面から卷いた赤旗が、支那を目指して翩翻と靡き出した。革命戰亂で練り上げた彼等は、その旗風に一齊に振ひ起つて、支那赤化の陣容を敷きつめたのである。

元來支那は、尨大なる國土と、數億の民衆とを有しながら、外的には英米の資本主義に壓迫され、內的には戰亂の歇むときなき國家である。民衆は常にその戰禍に塗炭の苦を嘗めてゐる。彼等カムニストを滿足せしむべき、斯かる二方面を具備した國家は、全世界を睨み廻はしても、支那をおいて他に斷じてないのである。加之、支那人の多くは、金そのものの爲めに、主義も節操も友も國も平然と售つて、あえて恥ぢない特長を備えてゐるのである。斯かる支那を世界革命の足場地として選定したのは、さすがに革命業者だけに眼識が高かつたと言ふべきである。

この巨頭、いまは世にあらずと雖も、彼れの叫んだ一語はロシヤ共產黨の金科玉條となつて殘り、常にカムニストをして叱咤激勵しつつあるのである。

われ等はこれより、ロシヤ共產黨の對支根本方針及びその陣容と策動とに一瞥を與へなければならない。

△……ロシヤ共產黨の對支根本方針

巨頭レーニンによつて世界革命の足場地が選定せられ、その達成を激勵せられてから、麾下のカムニストは一齊に活動を開始したのであつた。時も時、支那においては奉直の對立となり、戰亂の雲が四百餘洲に渦卷き、中央政府の威令行はれず、政情は混沌として暗黑時代を招來せんとするの狀態となつた。彼等はここに好機いたれりとなし、遂に、一九二四年八月、モスクワに開催せられたる第三インターナショナル第五回會議上に於て、對支方針の決議をなした。

第三インターナショナル第五回大會決議

列强資本國の政治的及び經濟的の壓迫をうけつゝある支那が、自ら政治的に發達し、支那國民が統一組織的に其の權力を得んとせば、先づ統一機關の改革を圖るを急務とする。而して之れが爲めにはプロレタリヤ政治を標榜し、且つ之れを要求する革命の道程に入らねばならぬ。而して、革命の道程に入りたる支那は先づ二個の歷史的課題を決定するの要がある。即ち、

第一、ブルジョア政府の倒壞を期すること。

第二、支那を獨立ソウエート共和國、即ち國民的に人種的に獨立國たらしむる爲め、外國の壓迫より支那を解放する事。

即ちこれてある。（中略）

支那に於ける政治方針の根本改革は、即ち保守黨及び反革命が掌握せる政權を、革命手段に因つて徹底的に之れを葬らねばならぬ。故に共產黨は支那の歷史的要求に從ひ、且つロシヤ社會主義ソウエート共和國聯邦を模範として、政治方針の改革を斷行せねばならぬ。先づ現在の總統政治を廢して、之れを選擧による數人の合議制政治となし、又全支那ソウエート大會によりて選擧されたる、立法機關たる中央執行委員會隸屬の、縣ソウエートを設けねばならぬ。（中略）

支那に於ける最高支配機關は、即ち支那共產黨中央執行委員會であるが、全世界共產黨大會及び國際社會主義共和國の中央機關たる、第三インタナナショナルに隸屬せねばならぬ。即ち支那ソウエート政權の行ふべき根本改革は左の如し。

一、帝國主義的の繼承制を廢し、領事裁判權其他の優越權制度を變更し、列强の鐵道其他の租借權を回收して、支那の國營とすること。

二、軍閥官僚を打破し、勞農赤衛軍の制度に因り軍隊を編成すること。

三、現在の軍國主義者の所有物を國民共產化し、廣大なる彼等所有地を貧民階級に分割する事。

四、個人の財產制並に世襲制を變更すること。

五、現在施行の法律を變更し、死刑體刑等を直ちに廢止すること。

右ロシヤ共產黨の對支根本方針は同時に勞農政府の對支根本方針である事は、卷頭に特記した如

くである。

さて、右を讀んで、吾人が注目せねばならぬ事は、彼等がその目的達成の手段として、人間の弱點や貪慾心に喰ひ込み、棚からボタ餅的な言辭を並べて、大衆を抱き込まんとする實に巧妙極まる點である。この決議は、無智の徒に對しての欺瞞であり、慾張る者に對しての好餌であり、不幸の徒に對するの煽動のバイブルである。

本決議文を讀んで、彼等が、白をきる事の如何に圖々しいかを余は此所に一寸述べなければならない。彼等は本決議において、支那の歴史的課題を解決する爲めの一として支那を『國民的に人種的に獨立國』たらしむる云々と云つて居るが、彼等自身の國家、即ちソウエート聯邦共和國中の、事實の中心勢力であり、支配者であり、主權者であるロシヤ共和國はドンな態だ。放任しておいても獨り歩きさへ出來兼ねるやうな小數なる民族を有する諸邦には、どんな事をしても左程の不安もないと見て、それ自身の民族によつての自治共和制を許したが、一億半餘の大民族を有するロシヤ共和國は、ロシヤ民族自身の自治に因る共和國でなくして、革命に參加せる極少數なる異民族、即ちユダヤ民族に因つて支配されてしまつてゐるではないか。他の少數民族の共和國は、自身の民族によつて自治し、聯邦ソウエートに參加し得られるが、一億半餘のロシヤ民族は、それ自身によつて自治する國を持たない。小數なるユダヤ民族の爲めに政權を奪はれ、ユダヤ民族の絶對專制のもとに、奴隷的に支配されてゐる。現ロシヤ民族は、國民としては、國を有せず、人種的には、奴隷である。彼等共產黨が、ロシヤ民族にかくも君臨しながら、支那をして國民的に人種的に獨立國たらしむ云々とは、自己の目的を達成する爲めには、其の手段と言辭とはあえて問ふ所ではない。この點はユダヤ民族の傳統的特長である。

更に彼等は、貧民階級に土地を分與する云々と云つてゐるが、これは彼等が目的達成の武器として先棒に使ふ可き大衆を、抱き込まんとする彼等一流の常套手段で、無智の貪慾漢は大部分この一項で釣られてしまふが、元より之れは目的達成までの方便であるので、達成の曉は平然とその契約を回避してしまふ。彼等の國の農民を見よ。土地の分配にあづかる約束で、血を流して革命の先棒を働いたが、重稅と搾取の怖ろしさに慄き、剩さへ土地の如きは、强猛無賴の徒の爭奪に任かしてあるのだ。無智な慾深い農民が、彼等のペテンにかゝつた事を氣付いた時は、既に武裝せる赤衛軍が乘り込んで來て、實彈を込めた筒先きを向けて、一言の不平も泣き言も許さなかつたのである。

更に圖々しい言葉、『死刑、體刑等を廢止すること』と並べたてた點である。彼等の言行は悉く欺瞞そのもので、ある點は今更述ぶるまでもないが、この一言を爲すに至つては眞に呆れざるを得ない。事實上、彼等の國ほど死刑囚、體刑囚の多い國家は、世界を求めても斷じて無いのだ。彼等の御用を勤むる主義者の中には、現ロシヤには囚人の居ないやうな馬鹿々々しい言を吐く馬鹿者もゐ

るが、斯かる馬鹿者の寝言は論外として、彼等の國ほど投獄、體刑、死刑を亂暴に決定する國家も、全世界中他には斷じて無いのである。

余は、現勞農ロシヤの獄に生活すること二ヶ年、獄を移ること十有八ヶ所、モスクワを始めとして、歐露より亞露にかけて三千餘里の道程を、獄から獄へ送られ、あらゆる慘苦を嘗めて生還したので、(目下日本新聞に掲載)彼等の獄中の一切を知りつくして居るのだ。有史以來の殘虐なる極刑場たる、ツチエカ(全露特別委員會)の生活も六ヶ月以上送つてゐる。銃殺の響は晝夜をわかたず轟き渡り、慘として此の世の生き地獄であつたのだ。余のブチ込まれてから間もなく帝制時代の宮中顧問官シテンボツク、ヘルモル、ニコライ、ワシリウキチ伯はじめ、三人まで銃殺され、余も獰猛なるユダヤの若輩に、二回死刑の宣告を受けたのだ。その訊問の壓制亂暴なる言語を絶し、その暴虐たる正に赤鬼以上であるのだ。プテルスカヤ、チユルマ(監獄)を始め、五千人以上ブチ込まれて居る監獄はザラにあるのだ。殺人專門業の全露特別委員會及び他の十八ヶ所の赤監獄に生活した者は、日本人中には他に一人もないので、余は其の獄の實狀を單行本にして社會に發表する積りだが、彼等が、自國の獄に死刑囚體刑囚を山のやうにブチ込んでおきながら、かかる對支決議をなすこの圖々しさは、ジユウ以外の民族には斷じてなし得られない所である。

彼等の理想は共産インターナシヨナルの旗蔭にかくれての世界征服にある。支那赤化は建築としての土臺である。彼等はどうしても支那をツキ壞さなければならない。その爲めには、如何なる事をも敢えて辭するところではない。さればこそ、『軍閥を打破し』云々と本決議中に叫びながら、目的達成の爲めには軍閥の巨頭吳佩孚と握手したではないか。更らに最近巨頭馮玉祥と握手したではないか。

彼等はすでに支那赤化の陣容を敷いて猛烈に策動して見たが、結果張作霖が其の目的達成の邪魔になる事を痛切に感じた。彼等は何ものを犧牲にしても、まづこの邪魔者を葬らなければならなくなつた。彼等はその爲めに、彼等自身の排斥しつゝある軍閥そのものの巨頭吳佩孚と、平然と握手してしまつたのである。

當時彼等が、吳將軍の直隷軍を援助し、一方奉天派の攪亂に策動した事實は物凄い程であつた。然れども、彼等が躍起となつて奉天派の攪亂に策動した甲斐もなく、奉天派が優勢となるや、ここに北京駐劄の勞農大使カラハンは、勞農政府に公文を以て次の時局報告をした。

△……カラハン大使の時局報告書

全露中央執行委員會へ。

寫しは、ロシヤ共産黨中央委員會及び外務人民委員會へ。

……（前文略）

惟ふに、由來張作霖は、日本の傀儡に過ぎぬ。日本は、日本政府より派遣せる張作霖の顧問を して、事實上、張作霖の權力を奪はしめんとしてゐる。又日本政府は、巨額の機密費を投じて、在支白派系統の東支鐵道關係者の維持に努め、確然たる支配者なき東支鐵道たらしむべく劃策せしと同時に、蒙古をして確然たる支配者なからしめんと要望してゐる。尙ほ日本は參謀本部の將校等を滿洲に派遣し、積極的に調査探究をなさしめてゐる……（下略）

一九二四年八月二十三日

在支露國全權大使カラハン

右報告書は、『張作霖を葬る事の出來なかつたのは、在支カムニスト及び自身の、活動と力とが足らなかつたのでなくして、張作霖を日本が援助したから』だつたと云ふ、政府に對する一種の自己辨解書と見るべきである。在支ロシヤ共產黨の總大將の立場となつて見れば、其の策動の不成功に終つた場合此の言をなす誠に止むを得ない苦言であらう。

カラハンが、口惜しまぎれの自己辨解的な、斯の如き報告を本國に送つた點を見て、彼等が如何に張作霖撲滅運動に猛烈なる努力を拂つた事を推斷する事が出來る。然れども、世の盲者、時に彼等の爲めに勞をとることなきにしもあらざるを以て、余は、單なる余一個の推斷よりも、盲者の爲めに左に確乎たる實證を發表する事とする。

報告

本文は、全露中央執行委員會へ。寫しは、外務人民委員會及び露國共產黨中央委員會へ。

支那共產黨中央委員會より余（カラハン）の許に送れる報告によれば、浙江側（張軍）の盧永祥將軍の軍隊に對して、何れも共產黨員を配置したるが、其の配置の內容左の如し。

△第四師（總兵員約八千人）同師には師團委員會なるものありて、十八共產黨支部の代表、及び四十六名の秘密通信員（內八名は師團內にて指揮の任務を帶ぶ）より編成してゐる。

△第十師（總兵員約一萬人）該師團には秘密通信支部の代表員より成立せる、合同機關が設置されてゐる。

△第一臨時師（總兵約八千人）該師團には二十二共產黨支部代表より成る師團委員會がある。同委員會は、在南京の地方委員會の指揮に從つてゐる。

△第二臨時師（總兵約八千人）該師團に八共產黨支部代表員より成る師團委員會がある。在上海地方委員會の指揮に從つてゐる。

△第一混成旅及び第二混成旅。何れも五共産黨支部より成る機關があつて、其中の一人之れを指揮す。

右の外、背後防衛の爲めに、義勇兵を募集して居るが、該防備兵中には共産黨指揮者も入り込みて、支部員或は秘密通信員等より成る機關を組織する豫定である。

藏致平及び楊化昭兩將軍の軍隊に對しては、未だ組織を編成せざるため、共産黨支部の勢力組織等未だ判明せざるも、既に支那共産黨中央委員會員十二名を派遣して、宣傳及び組織に當らして居る。

この外、支那共産黨及びロシヤ共産黨の勢力は、上海地方なる何豊林將軍の率ふる軍隊に大なる影響を及ぼしてゐる。現在後方部にある衛戍兵は、上海地方委員會軍事部の指揮下に屬してゐる

（中略）…支那に於ける今後の帝國主義の活動に就ては、密使をもつて改めて報告す。

在支露國全權大使カラハン

一九二四年八月二十三日於北京

右報告書は、當時ロシヤ共産黨が、支那共産黨員を叱咤激勵して、張軍攪亂の策動に、如何に奮鬪したかを雄辯に物語る公文である。これと同時に一方、ハバロフスクなる共産黨極東局は、一九二四年九月一日、同局政治部長代理ガリトマンの署名（第一八四二四號）を以て、在支カムニストに、緊急命令を發した。

△……共産黨極東局の命令

初めに。我が共産黨は今や重大なる局面に直面した……と急きたて、共産黨員はこの際グズ〳〵して居るべき場合でないと勵聲一番し、而して共産黨の執るべき行動を左の如く指示したのである。

一、國境地方及び支那在住の共産黨員の數を至急正確に調査すべし。

二、極東局は、國外に於ける活動を更に正確に指導する目的を以て、前項の調査を參考として、ロシヤ國民の移住に關する新調査を開始すべし。

三、地方委員會は、特は戰線に於ける地方委員會に命じて、軍事煽動支部を組織せしむべし。

四、戰線に於ける共産黨勞働者は、各軍の行動及び軍略上の機密を注意研究し、親しく調査報告等を調べ、更らに兩軍の配置を撮影すべし。

五、共産黨勞働者の事務進捗を期する目的を以て、支那共産黨地方委員會の許可なくとも、支那國民に因る秘密通信員の組織を許可し、彼等に因り中隊支部又は、聯隊支部を組織せしむべし。

イ、軍隊支部は秘密通信員の合同せしものにて、すべての動作行動は共産黨勞働者の指揮に

從ふ事

ロ、共産黨の指導者は、共産黨中央委員會の決議第七條に基き指揮を爲すこと。

等にわたり、詳細なる命令を下し、尙更らに、煽動指導者の心得をも指定してゐる。（煽動指導者の心得は略す）

この命令に接し、共産黨員が猛然と起つて支那の赤化達成に奮鬪した事は今更云ふまでもない。だが、彼等が如何にすさまじく策動しても、支那は、彼等共産黨がロシヤ帝國を一擧にして倒したほどそれほどたやすくは赤化しなかつたのである。ここに於てか共産黨極東局は躍起となつて、更に革命促進の命令を下すに臻つた。

△……支那革命の促進命令

本命令は、一九二四年十月二十九日、共産黨極東局組織部長の名を以て發せられたるものである。

極東局組織命令（第二八一四號）

一、支那に於ては未だ有力なる中央政府なく、且つ新支那の有力者間に、ロシヤの勢力未だ普及せざるに鑑み左の命令を發す。

二、支那は現今混沌たる狀態にある。この時に乘じて支那に革命を起さしむべく、支那の地方

總司令部と密接なる關係を結ばねばならぬ。又、支那の各地方に於ける各總司令部の組織、旗色を調査すると共に各地方の總司令部と結び、廣き一般選擧に因る創設委員なる機關を設け、各地方機關の承諾を得て單行本、宣傳文等を印刷配布し、創設委員會の價値及び同委員會に勞働者を加入せしむる手段としての、極めて必要なる宣傳をなさねばならぬ。

三、苟も吾人の主義目的と均しき主義目的を有する機關は、總て之れを合同する爲め、支那中央部都市は勿論、各所に於ける最も主要なる地點に、代理員を派遣して之れが運動に盡力せねばならぬ。

四、支那各地方に傳へられたる命令は最も忠實に之れが實現を期せねばならぬ。

五、若し支那地方政府にして、吾人の業務を果し得る而已ならず、進んで吾人の業務に援助せんとする者あらば、吾人のあらゆる活動は是等政府を通じて行ふと同時に、該政府に對する外部よりの壓迫、干涉を排除すべく保護し、好機會あらば支那の自由創造の爲め協同にて活動すべき協約を締結せねばならぬ。

六、吾人の活動に冷淡なる、或は敵意を有し、吾人の活動を妨害する政府に對しては、支那革命促進委員會、即ち『支那より手を引け』の機關組織に加入せしめ、一般統治の下に置かねばならぬ。

七、東支鐵道の財政に就ては、まづ支那側資本家と個人的契約を結び、各地方に於ける個人或は會社の名義を以て、貸し出しをなさしめねばならぬ。

八、此の命令は電報を以て布達する。

極東局組織部長代理　ダクキンス

青島及び上海をはじめとして、支那の各地に頻々と勞働騒亂が起つたのは、この命令を奉じてロシヤ共産黨員が、宣傳煽動に裏面運動に全力を傾注してかかつたのに因る事は明々白々である。

當時、該騒亂の裏面にロシヤ共産黨の潜んでゐる風説が日本の各新聞に傳へらるるや、カラハン、コップの徒は『そんな事實は斷じてない』と極力辨解したのみならず、カラハンの如きは、『かかる説は吾人に敵意を有する徒の捏造したものであつて、それを信ずる者は實に馬鹿々々しい次第だ』と圖々しくも知らぬ顔の半兵衛をきめこんでゐた。そして我が日本に於ても、當時彼等の言を眞に受けて『該暴動の裏面にロシヤ共産黨は斷じて策動してゐない。コップ大使やカラハン大　の言明で明かである』などと、彼等の爲に口角泡を飛ばして辨明役をつとめた馬鹿者がかなり居たが、いづくんぞ知らん、カラハンは當時暴動資金十萬元の送達方を本國政府に打電し、更に六月十四日夜暴動國の代表等の來訪した時、暴動の擴大續行に就いて代表者を激勵叱咤したのであるのだ。

彼等は、言辭を左右にして彼等自身の非行を隱蔽し否認し、もつて馬鹿正直な者等を欺く事を、最良の武器としてゐるのである。天下は悪に亡びずして愚に亡ぶ。若し彼等のこの武器にたやすく殘れる愚直な國民を多く有する國家があつたならば、その國家は遂に亡びざるを得ないのである。

余は更に進んで、彼等が支那赤化に事實上如何に苦心し、如何に奮鬪してゐるかの實證を發表し、併せて、『これ程まで支那赤化に策動してゐながら、そんな事は知らぬ存ぜぬ』の一點張りて居る彼等の圖々しさ振りを、『彼等の曲辯に手もなく欺かれてゐる人々』に知らせなければならない。

△……カラハン大使の秘密命令
支那革命は世界革命の準備也

本命令書は、一九二四年十一月三日附（第四五二號）を以て發せられたのであつて、同十一月八日カラハンの密使パンコフ、グジコフ、ステパノフ（男の名を騙つた婦人）が携帶して、長春に於て共産黨代表に手交したるものである。

……（前　文　略）

今や正に支那に對する資本主義國の政策は、醜と失態とを演じたる時なれば、この際、自由な國民より選ばれたる、眞の民衆代表政治家をして、勞農露國のソウエート式の政治を支那に行ふ

き好機會なるを以て、各員は最大の努力を之れに拂はなければならぬ。

吾人は、共産主義の訓練なき支那共産黨員中に於て、常に適當なる指導者の不足せるを現實に見てゐる（中略）よつて茲に普く共産黨機關に向つて左の心得を與ふ。

一、支那に於て新政府を樹立する國民代表に關して云はんに、政府と國民とは異身同體たるべきを旨とする代表を最も嚴正なる手段によつて選ばねばならぬ。選擧地方に多數の人口を有し、若し領土的に不便の地方あらば、種々なる選擧準備を要すべく或ひは選擧監督人を派し、或は土地語にて印刷せる選擧心得等を配布すると同時に、各地方は各代表を規定數だけ選擧委員會に派し、會議集會を開き、多數の選擧人を選ぶべく努力を要す。

二、支那共産黨中央委員會は、共産黨組織に關して、農民支部の設立につき最も注意を拂ふて居るが、這は過去に於て農民の名の下に何等實際的の組織なかつたに鑑み、今後農民支部に種々の使命を與へんとする爲めてある。尚選擧委員會を組織せんとせば次の心得を要す。

イ、選擧委員として總ての指導機關員以外に、廣く勞働者階級を網羅する事。

ロ、煽動委員部の計畫審議に、農民支部を必ず參加せしむる事。

ハ、計畫の承認をなし且つ命令の實行をなさんが爲め地方會議を開き、無産階級者及び農民委員に計りて選ばれたる農民代表は之れに出席する事。

三、縣職業委員會を、最も自覺せるプロレタリヤート機關と見做し、次の各職業者より、次の人數を選び、且つ其の所在をも報告し、中央委員會の支配下に置く事を命ず。

印刷業者	八十名
製造業者	五十名
商業者	五十名
郵便配達者	二十五名
電信業者	二十五名
國立公共機關員	七十名
其他一般業者	九十名

四、種々なる命令及び組織の一般指導機關として、選擧中央委員會を北京に設け、該委員會長はタワリシチ、張にして、各縣機關は一千名に對し二名の割合にて、代表者を該委員として派遣する。但し選擧中央委員會は臨時的のものにして、選擧終了後國民議會が開會された時に於て廢止するものである。

五、……（中略）各機關を强固にする事は、今後自由解放の爲めに、世界革命を起す爲めの準備なるを以て、常に之れに全努力を拂はねばならぬ。

六、本命令は英、支兩語に飜譯すべし。

共産黨政治局長　カラハン

右命令の事實なる事を證明す

政治局秘書　トレチヤコフ

彼等が支那赤化の爲めに、斯くしてまで周到なる用意と、斯くまで組織ある計畫をもつてのぞんでゐる點に、吾人は深く注目することを斷じて忘れてはならない。

△……支那國民黨に下せる假政府倒壞の嚴命

孫文沒後、支那國民黨は數派に分離したが、その優勢なる一派はロシヤ共産黨の旗下に投じ、彼等と全く旗色を同ふするに至つた事は、世人の知る通りである。

本命令はロシヤ共産黨極東局長クビヤークが、支那國民黨中央委員會に下したる極めて重大なる文書であるを以つて、左にその全文を掲げ、以つて大方各位と共にこれを熟讀せんと欲する。

支那國民黨中央委員會に對し第四三一一號を以て左の如く布達す。

一九二四年十一月五日の會議に於て、國民黨は、ロシヤ共産黨の主義綱領を奉持して、支那に於ける軍國主義と戰ふ可しとの意見に一致したが、其の策戰の最も有力なる武器は、政治的諸形

態を含める、經濟的脅威手段である。

國民黨が自己の活動範圍とせる所が、苟も支那語の話さるる所及び活動を爲し得る所は、いづれも可ならざるはない。斯くて準備洗練されたる戰鬪力は最も時に際しては遺憾なくこれを發揮し、以て、國民黨中央委員會の掌中に政權を收むべく、現政府を倒壞せねばならぬ。

支那國民黨中央委員會は、斯の如く、支那勞働者階級に於ける唯一の代表機關として、社會主義革命の役割を演ずべく努力し、宣傳煽動組織運動等によりて、勞働者階級をも革命の機運に導かねばならぬ。支那國民黨中央委員會は、一定の期限後には共の活動に於てロシヤ共産黨中央委員會より全く獨立し、獨得の權限資格を有する場合にも、左の事を心得ねばならぬ。

一、支那プロレタリヤートは、ロシヤ革命の力と連絡提携し、始めてブルジョア階級の手より政權を奪ふ事が出來る。

二、總ての革命力は、ロシヤ共産黨なる旌旗の下にロシヤ社會主義聯邦共和國のいたる所に漲つてゐる。

三、支那プロレタリヤートが、現政府を倒す上に於て、ロシヤ共産黨の援助は最も必要である。

同黨の使命は全世界の社會革命の斷行にある。

四、ロシア共産黨は、苟も專制政治の壓迫に惱む國民を救ふ爲めには、あらゆる專制政府に挑戰

する。

支那國民黨中央委員會は、常に支那共和國における社會主義運動代表者として、ロシヤ共產黨執行委員會と、密接なる連絡を取る事を最も必要となす。支那國民黨中央委員會が、國家革命をなすに當つては、ソウエート、ロシヤが、嘗めたる轍を踏むべきことは、革命を成就するに必要なる條件である。而してロシヤが適當なりと認めたる時期に於て、支那中央委員會は獨立し、以てロシヤ中央執行委員會の連絡なしに自由に活動を爲す事が出來る。而して前述の意味より左の結果を生ずる。

一、ロシヤ中央執行委員會と支那中央執行委員會との組織運動は密接なる連絡を必要とするも、兩委員會の間に締結されたる秘密協定等は一切之れを公表する事が出來ぬ。

二、ロシヤ共產黨執行委員會は、支那國民黨中央委員會の準備的活動に對し、黨員、財政、連絡報告其他の手段に因りて援助す。

三、總ての組織運動に關する命令書は兩委員會に因りて審議され、該命令の確實を期す。

四、革命に際して、常に社會主義機關と關係を持續せる他の黨派の裏切的行動を防止する爲めに支那中央執行委員會は、常にロシヤ中央執行委員會と連絡を取り、同委員會の許諾なくして他の如何なる團體とも協定し得ない。

最近に於ける支那國民黨は、以上の義務を果さざる如き傾向あるは、吾人の深く遺憾とする所である。故に之れを再言すれば、吾人の共同目的は社會主義革命、即ち、資本主義、君主主義を滅亡せしめ、共產主義を以て之れに代えんとするにある。

今や支那政局に大變化が起りつつあるが、吾人は之を看過するに忍びない。何となれば、吾人の使命は斯かる爭鬪革命に對して、援助するのみならず、更に其の爭鬪を擴大せしめ、以て資本主義を根底から撲滅せしむるにあるからである。

極東局は、一は革命、他はブルジョア機關の援助に因る經濟的革命に對して、兩革命を兩立せしむる事を可能なりとは認めぬ。故に勞働者及び農民を召集して、カムニズムを實現せしむる必要を認めてゐる。而してカムニズムの實現は、一に國民の革命手段に因るの他はないのである。唯決斷的手段のみが吾人の理想を實現せしむるの途なるを記憶し、中央執行委員會は、都市村落に於ける勞働者總罷業の準備をなし、最近歐洲地方に起れる圓熟せるストライキと連絡を保ちて社會主義革命運動の先驅とならなければならない。

吾人はブルジョア階級の壓迫と、經濟的瀕使とを自覺するを以て、此の壓迫者、征服者に對し個人的に又た群衆的に奮起し直接の攻擊を加へねばならぬ。然れども、各個人の活動行動に就いては其行爲が、必ず所屬機關の決議に因りて行はれたと云ふものでなく、各個人の行動活動に於

いて、恐怖手段を許可すべきや否やと云ふ事も可なりに問題ではあるが、其の事は各地方に於ける事情と事件に應じて、地方人に因り適當に決せらるべき問題である。

露支兩國に於ける社會主義者の爭鬪の目的は、共通の敵、即ち、全世界の資本主義なる敵を驅逐する意味において、何等異る所はない。而して現在に於ける支那社會主義者の緊急義務は、現存せる封建政府を倒壞せしむる事である、ロシヤの革命力は支那社會主義者の目的を達成せしむる爲め有力なる援助國となつて努力する。

一九二五年一月七日　　共産黨極東局長　　クビヤーク

支那赤化の目的を貫く爲めには、政治的革命手段と、經濟的革命手段との兩刃を提げて、臨機巧みにその兩刃を使ひわけながら血眼になつて策動してゐる、この徹底振りを見よ。本文書を熟讀し而して支那の各地に起つた昨年の爭議を見たなら、何人と雖もその爭議はロシヤ共産黨の策動に因つたのである點に氣がつくであらう。而してコップやカラハンの徒の辯明なんぞの、如何にアテにならざるかを悟る事が出來るであらうと思ふ。

さて、たゆむ事なき彼等の支那赤化の努力は空しからずして、遂に勞働爭議が勃發するや彼等は時來たれり！と一齊に振ひ立つた。而して暴動を益々擴大せしめんとして、遂に一九二五年の五月十六日、第三インターナショナル亞細亞部をして、暴動部隊監督指揮者に暴動激勵の嚴命を下さしめたのである。

△……指揮者に下したる暴動激勵命令

（前　略）

革命の爲め且つ吾人の理想を貫くために正しき戰ひをなすにあたり、各機關及び支那は、最も嚴重に黨規を守り、任命又は指命されたる指揮官に對しては絶對に服從せねばならぬ。（中略）吾人は本事件に於いて、最後の勝利を得るか、然らずんば少くとも吾人側に有利に事件を終結せしめ、吾人の後輩に範を示すべき責任を有す。故に各暴動指揮者は勿論政治部指揮者及びヤチェカ部長も自己の部隊内に絶對に黨規を遵守せしむべき義務を有するものなるが、吾人の直面せる事件に對しては、如何なる犧牲、障害をも顧慮する所なく、最も頑强にして斷乎たる態度を以て戰ふを要す。

一九二五年六月十六日　　第三共産黨インターナショナル　　アジヤ部長代理　ブリユークリ

右命令文を一見すれば、當時彼等が支那革命の機運を助長すべく、如何に眞劍であつたかが瞭然たるものである。思ふに潜めるものはいつしか顯はれずにゐるものではない。裏面に潜んでゐる彼等の

策動は、いつしか支那官憲の知る所となり、暴動の火の手の熾んなる折り、上海に於いて彼等一味の即ちロシヤ共産黨員ドーゼルが支那官憲のために逮捕された。而して嚴重なる取調べの結果書籍包の中から、左の恐るべき文書を發見されたのである。

第四十三號の本證明書を所持するドーゼルは（共産黨證券第四九八號）南支煽動部が罷業委員會を組織せしむべく、香港及び廣東に派遣せるものなるを以て、全露共産黨は當人の活動に關しあらゆる援助を與ふるの義務を有するものとす。

一九二五年六月十六日　　ロシヤ共産黨煽動部

單に右の證明書ばかりに非らずして『勞農露國の廣東地方に於ける石油物産獨占覺書』上海罷業の經緯『支那國民の英雄的戰ひ』と題する、罷業期間内に於ける上海の情勢記錄等を所持して居たのを同時に支那官憲の爲めに發見されてしまつた。

コツプ、カラハンの徒の前述の如き辨明は、傳統的に洗練されたる、ユダヤ民族獨特のペテン辭である事を如上の列擧確證によつて立證する事が出來る。

◇　◇　◇

余は以上にわたつて、ロシヤ共産黨が支那の赤化に就いて如何に眞劍であり、而して如何に組織ある計畫を以て策動しつゝあるかの實證を擧げた。大方各位は、彼等が、政治方面と經濟方面との兩刃を提げて、赤化の達成を期して縱横無盡に奮躍してゐる事實を、以上の實例によつて明確に知る所があつた事と思ふ。

ロシヤ共産黨と勞農政府は同心の機體である事は、既に知られる通りであり、而して彼等の理想は全世界の革命にある點も周知の如くである。彼等が支那赤化に全力を傾注する所以は、彼等自身の叫びつゝある如く、世界革命達成の準備であるからである。

彼等は何故に世界革命を斷行しやうとするか。その達成に焦心しつつある所以は何故であるか。彼等は『壓迫階級及び民族への自由解放の爲め』だと云ふ。奪はれたる一切の權力機關を、支配階級より奪回するためだと云ふ。その階級に平和と、幸福と、自由とを招來せしめん爲めだと云ふ。彼等の言は果して眞乎。吾人が嚴密に檢討せねばならぬ點は此所だ。

余は革命前及び革命後を通じてロシヤに生活すること前後十有餘年、此の間革命前のロシヤ及び革命後のロシヤ民衆の生活、革命後のロシヤ及び勞農治下の民衆の生活に就き、鋭意調査したのであるが、現勞農ロシヤの民衆、卽ちソウエート政府の支配下にある一億半餘のロシヤ人の生活は、革命前に比ぶればその慘苦百千倍であるのだ。ロシヤ民衆は彼等から、言論集會の自由を斷然禁止されてゐ

る。そこに何の自由があるか。ロシヤ立國の基礎をなす多數の農民は、恐る可き重稅を强制され、剩さへ赤衛軍より成る特別徵發隊のために、宣傳費として飽く事なく金品を强奪され搾取され、骨と皮ばかりになつて彼等の壓制下に泣いてゐる。そこに何の平和や幸福がある乎。此の故に虐政にたえかねて、國境を越えて年々國外に脫逃する農民の如何に多きかを見られよ。彼等の政治は、獨裁專制と壓迫强制との虐政である。故に民衆の生活は不安と恐怖と絕望と慘苦とばかりである。彼等は現世界の支配階級を敵視してゐるが、彼等の政治はより以上何百千倍もの專制である。虐制である。彼等の國には、彼國の御用新聞以外の新聞雜誌が一つだもないのではないか。その發行を絕對に許さないではないか。そんな國はどこにある。そんな自由が何所にある。彼等の國以外には斷じてないチエカ、後のゲ、ペ、ウの如き殺人專門所を彼等が組織してあつて、血眼になつてロシヤ人に死刑と體刑とをなしつゝあるのを世人は何と見るか。

彼等の振り翳した美しい標榜は、世界をッキ崩すための方便である。愚民への欺瞞である。それによつてッキ崩した後の、新たに生れた世界の實權を握らんとするの野心からである。彼等はこの美しきモットーでロシヤを征服したのである。見よ。ソウエート聯邦の中心勢力國たるロシヤ共和國は、彼等のために一切の權力機關を奪はれてしまつたではないか。一億何千萬のロシヤ民族は、國を失つてしまつて、彼等の絕對支配下に奴隸となつて虐政に泣いてゐるではないか。人々よ。彼等はロシヤ

の一切の政治機關を奪つてしまつたのである。ロシヤ人はいま彼等に極度の壓迫をもつて酷使されて居るのである。現ソウエート、ロシヤの最高機關に列する人々、政府各員、新聞雜誌記者は悉く彼等である。ロシヤ民族は除外されてゐるのである。日本に使ひしてゐるコップ、ヤンソン、スクレッパはじめかつては使ひしたヨッフエ、ウオズネセンスキー等も皆彼等である。彼等とは何ぞ、曰くユダヤ人、ジユ、ユーレの稱あるユダヤ人であるのだ。

要するに、彼等が支那赤化に血眼になつてゐるのは、世界赤化の下準備であるからだ。世界革命を何故に企てたのか。彼等はそれによつて世界を征服しようとするのだ。革命を名としてロシヤを乘り取り、ロシヤ民衆を絕對支配下に踏みつけてゐる如くに、全世界の支配者とならんがためであるのだ。それは彼等の千有餘年來の宿願であるのだ。宗教的征服を捨てて、政經方面からその大願を成就しようとしてゐるのだ。そのためには如何なる慘忍をも平然とやる。口に搾取を罵りながら、彼等自身が自身等の大願成就のためには、飢饉に泣きつゝあるロシヤ農民から、兵隊を向けてまで宣傳費を徵發してゐる事實を見よ。生活の平等のための革命……この馬鹿な言ひ草を見よ。それは單に無智な人々を欺す一の方便にしかすぎないのだ。プロレタリヤートをモットーとしながら、一と度ロシヤを征服するや、彼等の幹部の生活の豪奢さはアッとするばかりで、チチエリンの如きは、每日邦貨にして約百圓宛位の葉卷を燻らし、カラハンの如きは、昨年北京からモスクワに歸る時、宮廷列車に豪然とお

さまり、ハルビン驛頭に幾千人の出迎者を命じ、一般勞働者なんぞは、遠く追つぱらつてしまつて、それらに姿さへも見せなかつたのではないか。こんなプロレタリヤートが何所にある。彼等の有する權力、及びその生活振りは、絶對なる專制君主そのものであるのだ。彼等は遠かに世界を征服し、その支配者となり、かかる專制と生活振りをもつて、全世界にのぞまんとしつつあるのである事を吾人は忘れてはならない。—(完)—

彼等は、獨り支那に對してのみならず、朝鮮は勿論我が國に對しても、怖るべき程の統一ある組織を以つて、日本赤化の陣を敷きつめたのである。彼等の犬となつて、日本破壞の御用をつとむるジュドックが、斯くも多き事を見られよ。尙ほ參考として、ロシヤ姓を騙るユダヤ人の姓を左に掲ぐ

彼等は、獨り支那に對してのみならず、我が國に對しても、怖るべき程の統一ある組織を以て、日本赤化の陣を敷きつめたのである。別圖附錄は、彼等のその系統を示したものである。彼等の犬となつて、日本破壞の御用をつとむる者が、斯くも多き事の事實を見られよ。

尙ほ參考として、勞農ロシアの統治上の實權を握る人種の類別表を左に掲ぐ。本表は一九二三年度現在の調査で、勞農政府公認の機關紙『イーズヴエスチヤ』ゴーロス・ツルダー』『ズナーミ・ヤツルダー』等に現れた極めて正確なるものである。爾來數年を經過し、其の職務に多少の異動はあると雖ども、本表に現はれたる人物等が依然として中心勢力を握つて居る事は明かである。左によつて、ロシヤが如何なる人種の掌中にあるかの事實を知られん事を望む。

ロシヤ統治者
國民代表委員會（內閣）

一、委員會長　ウリヤノフ（レーニン）　ロシヤ
二、外務委員　チチエリン　同
三、內務委員　ジユカシビツ　アルメニヤ
四、最高經濟委員　ルルベエ（ラーリン）　ユダヤ
五、勞農委員　シリヒチエル　同
六、農業委員　ブロツイアン　アルメニヤ
七、陸海軍委員　ブロンシテン（トロツキ）　ユダヤ
八、監査委員　ランゼル　同
九、農業委員　カウフマン　同
一〇、勞働委員　シミツト　同
一一、社會秩序委員　エ、リリナ（グニギツセナ）　同
一二、國民教育委員（文部）ルナチヤルスキー（マンデリシタン）　同
一三、宗教委員　シユビツツベルグ　ユダヤ
一四、庶務委員　アツフエリヴアム　同
一五、保險委員　アンブエリト　同
一六、財政委員　オゾードル（グコフスキー）　同
一七、出版物檢査委員　ブオロダルスキー　同
一八、選擧監督委員　ウイツツキー　同
一九、法律委員　イ・シテンベルグ　同
二〇、避難民撤退委員　フイニギシテン　同
二一、右代理　ラブイツチ　同
二二、同　サフラフスキー　同

計　二十二人

ロシヤ　二人
アルメニヤ　二人
ユダヤ　十八人

軍事委員會

一、陸海軍委員長　ブロンシユテン（トロツキ）ユダヤ
二、北軍司令部參謀長　アル・フイシマン　同
三、第十二軍々事委員　ロ　ム　ム　同
四、第十二軍全權委員　メシトシイク　同
五、軍司令部全權委員　リヴエンソン　同
六、西部戰線軍事會長　ボゼルン　同
七、モスクワ地方軍事全權委員　グベリマン　同
八、ブイテヴスク地方軍事全權委員　ダイベ　同
九、スルツカ市軍用徵發委員　ゴツマン　同
一〇、サマルスク師團全權委員　ベクマン　同
一一、サマルスク師團軍事委員　ベルツツマン　同
一二、モスクワ徵發支部長、
一三、モスクワ中央軍事委員會長　トロツキ　同

一四、代表　ギルシフエリド　同
一五、代表　スクリアンスキー　同
一六、全權委員會委員　ショロドク　同
一七、モスクワ區軍事委員　ベツチ　ラトウイヤ
一八、同　シテンガルト　同
一九、軍事委員　ドウミス　ドイツ
二〇、國境守備軍學校委員　グレイゼル　ラトウイヤ
二一、第五ソウエート師團全權委員　シエンニンス　ユダヤ
二二、同　ボロンスキー　ラトウイヤ
二三、カフカズ軍事委員　レシチネル　ユダヤ
二四、東方戰線特別委員　シユリマン　同
二五、同　ブルノー　同
二六、カザン軍事委員　ローゼンゴリツ　同
二七、同　マイガル　同
二八、同　ナゼンゴリツ　同

二九、ペトログラード軍事區全權委員　グヴイツビス　同
三〇、同會長　ゾエイゲル　同
三一、ヤロスバル赤衛軍司令官　ゲツケル　同
三二、東方チエツク・スロバツク戰線司令官　ヴアツエチース　ラトウイヤ
三三、モスクワ軍事長　ブツース　同
三四、コミツサール軍事委員會員　ペ・ペ・ラジメル　同
三五、軍需品供給長　エルカン・ソロン・コリマン（前オーストリヤ士官）同
三六、モスクワ警視管理區軍事委員　メツトカゼ　同
三七、クリーム防備軍司令官　ア・サツク　同
三八、クルスク戰線司令官　スイズイス　同
三九、同　代理　ズイリベリマン　同
四〇、ルーマニヤ戰線全權委員　スビロ　同
四一、ロ・ドク通商全權委員　ダウイドウイチ　同
四二、無任所委員　シエトウール　同
四三、同　スシドウイツチ　同

計　四十三人
ロシヤ　〇人
ラトウイヤ　七人
ドイツ　一人
ユダヤ　三十五人

◎右の表を最も注意すべし◎

内部部

一、國民委員長　アブフエリバウム（ジノーウイエフ）ユダヤ
二、同代理兼別委員會委員　ウリツツキ　同
三、宣傳委員長　ゴリデンルーデイン　同
四、經濟會議委員長　ヴエ・エンゼル　同
五、國民保健會副委員長　ア・ルドウニク　同
六、避難民引上委員　イフエニツシテエン　同
七、同　代理　アブラム・クロフマン　同

八、ペトログラード出版物檢査委員　ボロダルスキー　同
九、ペトログラード衛戍司令官　ゲ・シネイゼル　同
一〇、モスクワ市長　ミール　同
一一、モスクワ出版物檢査委員　クラシコフ　同
一二、ペトログラード警察署長　ファエルマン　同
一三、印刷局長　マルチノース　同
一四、モスクワ保安委員　ケ・ロゼンタル　同
一五、ペトログラード特別委員會　ミインクユン　同
一六、同　ギルレル　同
一七、同　ゴズロフスキー　同
一八、同　モデエル　同
一九、同　イ・ロスシロヴイチ　同
二〇、同　ヂスベロフ　同
二一、同　インレーヴイチ　同
二二、同　クラシコフ　同

二三、同　ブクハン　アルメニヤ
二四、同　メルビス　ラトウイヤ
二五、同　バイケス　同
二六、同　アンヴエリツ　ドイツ
二七、ペトログラード共産黨委員　ゾルケ　ユダヤ
二八、同　ラダムイスリスキー　ラトウイヤ
二九、モスクワ最高會議議長　セルジンスキー　ポーランド
三〇、副議長　ペチエルス　ラトウイヤ
三一、委員　シユクロフスキー　ユダヤ
三二、同　カネイフイス　同
三三、同　ツエイスチン　同
三四、同　ラスミローウイチ　同
三五、同　クロンベルグ　同
三六、同　ハイキナ（婦人）　同
三七、同　カルルソン　フインランド

三八、同　シヤウマン　同
三九、同　レオンドウイチ　ユダヤ
四〇、同　レヴイキン　同
四一、同　アントノフ　ロシヤ
四二、同　デリヤフアブル　ユダヤ
四三、同　チツチキン　同
四四、同　エ・ロスシロヴイチ　同
四五、同　ゲ・ローゼン　同
四六、同　ビセンスキー　同
四七、同　ブリオムキン　同
四八、同　アレクサンドロウイチ　ロシヤ
四九、同　イ・モーゼル　ユダヤ
五〇、同　レイチエンベルグ　同
五一、同　ファイネス　同
五二、同　サーシ　同

五三、同　ヤコフ・ゴルヂン　同
五四、同　ガリベルシタイン　同
五五、同　クニギツセン　同
五六、同　ラツチス　同
五七、同　ダイボル　フインランド
五八、同　サイソン　アルメニヤ
五九、同　デイブケン　フインランド
六〇、同　リベルト　ユダヤ
六一、同　フオゲリ　ドイツ
六二、同　ザツキス　フインランド
六三、同　シレンクス　ユダヤ
六四、同　ヤンソン　フインランド

計　六十四人

ロシヤ　二
ポーランド　一

アルメニヤ　三
ドイツ　二
フインランド　十一
ユダヤ　四十五

外務省

一、國民代表委員　チチエリン（オルナトスキー或はバターリン）ロシヤ
二、同代理　カラハン　アルメニヤ
三、同　同　フリツチ　フインランド
四、旅券係　マリゴリン　ヤユダ
五、ベルリン大使　ヨツフエ　同
六、同代理　レブイチ　同
七、ベルリン大使館教育部長　アクセリロード　同
八、ロンドン大使（非公認）　カメネフ　同
九、ロンドン或はパリ大使（豫定）　同人　同

一〇、クリスチヤン公使　ベイトレル　ユダヤ
一一、グラスゴー領事　マルキン　同
一二、キエフ平和委員會代表　カイン・ラコフスキー　同
一三、同補員　マヌイリスキー　同
一四、外務省法律顧問　イリセン　同
一五、キエフ總領事　グリエンバム　同
一六、オデツサ總領事　ア・ベーク　同
一七、米國大使　マルテンス　ドイツ

計　十七人

ロシヤ　一
アルマニヤ　一
フインランド　一
ドイツ　一
ユダヤ　十三

財政部

一、首席委員　メルジウインスキー　ポーランド
二、同補佐員　ドンソロウイ　ユダヤ
三、總務審査員　イシトル・グロフスキ　同
四、同補佐員　アクロリロード　同
五、同　カインザクス　同
六、同兼民間貸付部長　ワオゴレーボフ　ロシヤ
七、秘書　ハスキン　ユダヤ
八、同補佐員　ベルタヒネウイナ（婦人）　同
九、經濟委員會長　モルド・ラツツエス　同
一〇、同補佐員　ウエイツマン　同
一一、露、獨計算委員　フイルスチエンベルグ　同
一二、會計長　コガン　同
一三、國民銀行支配人　ミンエリマン　同

一四、銀行委員會委員　サクス　ユダヤ
一五、同　エベリン　同
一六、同　アクセリロート　同
一七、同　サドニコフ　ロシヤ
一八、ベルリン駐在　ランダウ　ユダヤ
一九、コペンハーゲン駐在　ウオロフスキー　同
二〇、ストツクホルム駐在　シエンクマン　同
二一、國民銀行監査委員長　カン　同
二二、同補佐員　ゴレンシテン　同
二三、舊銀行解放委員長　アンリク　同
二四、同顧問　モイセイウイチ　同
二五、解決委員會員　エリヤセウイチ　同
二六、同　ゲ・キフエトリチ　同
二七、同　アロン・ココフ　同
二八、同　ゲレメリツチ　同

二九、同　アル・ロゼンシテン　同
三〇、同　ア・ブラット　同

計　三十人

ロシヤ　二
ラトウイヤ　一
ポーランド　一
ユダヤ　二十六

司法部

一、部長　ショフ・シテインベルグ　ユダヤ
二、モスクワ控訴院長　シレイデン　同
三、モスクワ最高革命委員會議長　ベルマン　同
四、ペトログラード元老院議長　ビル　同
五、共和國最高革命裁判長　トロツキ　同
六、革命最高會議調査部長　グルツスマン　同

七、裁判所精査部長　レゲンドルフ　ユダヤ
八、同　スルツツキー　同
九、首席陪審官　フリツドキン　同
一〇、同補佐官　ゴインバルク　同
一一、司法部秘書長　チルブイチ　同
一二、同補佐員　ルツキイ　同
一三、公認辯護人　ゲアントリスキ　同
一四、同　ウエ・アロノウイチ　同
一五、同　イ、ベイエル　同
一六、同　エル・ビスク　同
一七、同　ア・グンダル　同
一八、同　ゲ・ラビドウイチ　同
一九、同　カスタリヤン　アルメニヤ

計　十九人

アルメニヤ　一

ユダヤ　十八

◉軍事より更らに司法權を握れる此の表を注意すべし◉

保健部

一、部長　ダウゲ　ドイツ
二、藥品供給部長　ラッポポル　ユダヤ
三、同補佐員　フクス　同
四、傳染病委員會長　ベ・ウェベレス　同
五、花柳病委員會長　ウオリフソン　同
計　五人

ドイツ　一
ユダヤ　四

教育部

一、部長　ルナチャルスキー　ユダヤ
二、委員　クリユンベルグ　同
三、教育部長　ゾロトニツキー　同
四、市立學校部長　ルリエ　同
五、舞踏部長　シテンベルグ　同
六、秘書長　エイヘンゲルツ　同
七、演劇部長　ローゼンフエリド　同
八、同補佐役　ローゼンフエドロワ（カメネフ妻）　同
九、第三部長　グロイニム　同
一〇、社會專門學校教授及び役員　レイツスネル　ドイツ
一一、同　フリツチエ　ラトウイヤ
一二、同　ゴイクボルク　ユダヤ
一三、同　ボクロフスキー　同

一四、同　ウエリマン　ユダヤ
一五、同　ソベルソン　同
一六、同　エルベルク　同
一七、同　ケリトウラン　ハンガリ
一八、同　グロスマン　ユダヤ
一九、同　クラチゴフスキ　同
二〇、同　ウルシネン　フインランド
二一、同　クツシイネン　同
二二、同　クルプスカヤ（婦人）　ユダヤ
二三、同　ナハムケス　同
二四、同　シユーツカ　同
二五、同　ネフロフスキー　同
二六、同　ラコフスキー　同
二七、同　レウイン　同
二八、同　オリシヤンスキー　同

二九、同　チエチエンベル　同
三〇、同　グルブイチ　同
三一、同　ルドベルグ　同
三二、同　スプローラ　フインランド
三三、同　ロージン　ユダヤ
三四、同　ダンチエフスキー　同
三五、同　グレイゼル　同
三六、同　ゴリデンルーゲン　同
三七、同　ブヂン　同
三八、同　ロツトシユタイン　同
三九、同　ラポルト　同
四〇、同　ルリエ　同
四一、名譽委員　ルクセンブルク　同
四二、同　ツエツキンス　同
四三、同　メフリング　ドイツ

四四、同　ハアゼ　ユダヤ
四五、演說部辯士　フイセンゴリツ　同
四六、同　ボリヤンスキー　同
四七、同　ヘルソンスカヤ（婦人）　同
四八、同　バルフサイツエフ　同
四九、同　ブレンゼル　同
五〇、同　ホタゼウイチ　同
五一、同　シチブアルト　同
五二、支配者　ブルシテン　同
五三、取締役　ポズネル　同

計　五十三人

ラトウイヤ　一
ドイツ　二
ハンガリ　一
フインランド　三

ユダヤ　四十六

○本表も注意すべし○

新聞雜誌記者

新聞『ブラウダ』（眞）『イズウエスチヤ』（報道）『フイーナンソ』（財政）
雜誌『ナドーロノエ、ハジヤイストウオ』（國民經濟）

一、右新聞雜誌記者　デイング　ユダヤ
二、同　ヘルグマン　同
三、同　クーン　同
四、同　デイアマント　同
五、同　ブラモソン　同
六、同　トルベルト　同
七、同　ゴリン　同
八、同　ビツツネル　同
九、同　アリベロウイチ　同

一〇、同　クレイズネル　同
一一、同　ハナムゲス　同
一二、同　ツイゲル　同
一三、同　クロツスマン　同
一四、同　ルリエ　同
一五、同　マキシム・ゴーリキ　ロシヤ
一六、ウオリ、ヤトルダ（勞働の意思）　サーシ　ユダヤ
一七、同　ボリヤンスキー　同
一八、同　イエ・カツツ　同
一九、ズナーミヤ、トルダ（勞働の旗）　シテインベルグ　同
二〇、同　ランデル　同
二一、同　ヤロスラブスキー　同
二二、同　イエフロン　同
二三、同　シユマツベン　同
二四、同　ラヴイン　同

二五、同　ビリン　同
二六、同　ダブイロン　同
二七、同　ゴーリキ（ブラウダ記者）　ロシヤ
二八、新工業新聞　ベルレシテイン　ユダヤ
二九、同　コガン　同
三〇、同　ゴリトベルグ　同
三一、同　ゴリトマン　同
三二、同　ロゼンベルク　同
三三、同　ラフアロウイチ　同
三四、同　グロマン　同
三五、同　リリヘル　同
三六、同　スラブエンソン　同
三七、同　ケムケル　同
三八、同　ゴフマン　同
三九、同　シユフマン　同

四〇、同　バスオエリ　同
四一、同　プレス　同
四二、同　モツフ　同
四三、同　エリヤソン　同

計　四十三人

ロシヤ　二
ユダヤ　四十一

國民經濟會議本部

一、モスクワ會議長　ルイコフ（現人民委員長）　ユダヤ
二、ペトログラード會議長　エイスモンド　同
三、同副議長　リヤンノテマン　同
四、同市長　クレイニス　同
五、モスクワ副議長　クラシコフ　同
六、同　ショフマン　同

七、同代理　ハイキナ（婦人）　ユダヤ
八、建築部長　キツシバリチエル　同
九、同囑託　ガザロフ　同
一〇、同代理　サンヂイチ　同
一一、バタ購買委員會長　タフリツト　同
一二、漁業部長　クランメル　同
一三、石炭部長　ロツテンベルグ　同
一四、運輸部長　キルサン　アルメニヤ
一五、同代理　シユレモフ　同
一六、製銑部長　アリペロヴイチ　同
一七、經濟部最高會議委員　クレイトマン　ユダヤ
一八、同　ワエンベルク　同
一九、同　クラシン（現外國貿易委員長）　同
二〇、同　ドウリエ　同
二一、同　チユバル　同

二二、	同	ゴリドブラド　同
二三、	同	モロフ　ロシヤ
二四、	同	アリベロウイチ　ユダヤ
二五、	同	ラウイノウイチ　同
二六、	ドン地方委員會長	コガン　同
二七、	同	オツキス　同
二八、	同	ボロンスキー　ロシヤ
二九、	同	ビスク　ラトウイヤ
三〇、	同	クリヤツセン　同
三一、	同	リウシツド　同
三二、	同	キルシ　ドイツ
三三、	同	クルーゼ　同
三四、	同	ウイフチエル　同
三五、	同	ローゼンタル　ユダヤ
三六、	同	シマーウイチ　同

三七、	購買部員	リユボミルルスキ　ユダヤ
三八、	同	クニチユーク　同
三九、	同	ゼズエリゲイン　同
四〇、	同	ダーゲル　同
四一、	同	ゲイキン　同
四二、	同	クラエフスキー　ロシヤ
四三、	炭坑委員	カシオル　ユダヤ
四四、	同	ゴリツドマン　同
四五、	同	レングニクス　同
四六、	同	ゴリツマン　同
四七、	同	シイミツド　同
四八、	同	スミツトフアリクネル　同
四九、	同	ルズイタク　同
五〇、	同	サルチエリ　同
五一、	同	レインスヴイツト　同

五二、同　ブリユーム
五三、同　カツツエリ
五四、同　スール
五五、同　チエツトコフ
計　五十五人

ロシヤ　五
アルメニヤ　一
ラトウイヤ　二
ドイツ　三
ユダヤ　四十四

（以下職業別及び姓名を略す）

○各地方委員、職業局に　二十三

ロシヤ　一
ラトウイヤ　一
ユダヤ　二一

○赤十字勞働代表

ユダヤ　八　八

○社會援助委員

ユダヤ　六　六

○勞働委員會

ドイツ　一　八
ユダヤ　七　七

○帝制時代の主要人物調査委員會

ロシヤ　一　一〇
ユダヤ　六

○ニコライ二世殺害者探偵委員會

ロシヤ　二
アルメニヤ　一
ユダヤ　七

○モスクワ軍人、勞働者代表第一會議　二三

アルメニヤ　一
ラトウイヤ　三
ユダヤ　一九

○第四、全露勞働者農民、代表會議執行委員會　三四

ロシヤ　一
ユダヤ　三三

○第五回、中央執行委員會　六一

ロシヤ　五
グルジン　一
ラトウイヤ　六
イメレチン　一
ドイツ　一
混血　一
チェック　一
アルメニヤ　二

ユダヤ　四三

○社會民主勞働黨、中央委員會　一二

ロシヤ　二
ユダヤ　一〇

實際上ロシヤを支配する各員を國籍別にすれば次の如くになる。（此の表は、ロシヤが、如何なる人種に支配されつゝあるかを明瞭に示すものなり）

ロシヤ　三十一人
ポーランド　二人
チェック　一人
アルメニヤ　十二人
ラトウイヤ　三十四人
フインランド　三人
グルジン　一人

イメレチン　一人
マヂヤール　一人
ドイツ　十二人
ユダヤ　四百四十七人

ロシヤの姓を騙るユーレノー

ロシヤ姓
ラリン
トロツキ
リリナ
ルナチヤルスキー
ジノーウイエフ
カメネフ
スチエリロフ

ユダヤ姓
ルリヨウ
ブロンシテイン
クニギツセン
マンゼリシタム
アプフエリバウム
ロゼンリエリツド
ナハムケス

ケーレンスキー
グラドネフ
キエウインスキー
ガネツキー
カルル、ラデツク
ロスチン
レベテエフ
イリイン
ルミヤンツエフ
ナウモフ
ゼンコーウイチ
スブエルドフ
ブラヂミルスキー
マルトフ
バウロウイチ

アキルビス
ザクス
グリユンバウム
フイルステンブルグ
ソベリソン
グロスマン
ボリヤンスキー
ツイゲル
ルリヨウ
ギンツベルゲル
ラドウス
ローゼン
ギルシフエリツ
ツエゼルバウム
ウエリツトマン

レウイツキー　ツエゼルヴウム
スハノフ　ギムメル
ソールツエフ　ブレイフマン
カムコフ　カツツ
イリイン　ゴリツドシテイン
ザゴルスキー　クラフマン

以上の別表を讀み終つて、われ等は、次のことを深く研究せねばならぬ。

一、ユダヤ人が、事實上の支配者となり得たのは何故であるか？

二、彼等が、斯くの如く優勢權を掌つてゐるのは何故であるか？

三、何故にユダヤ人ばかりが、斯く勢力を得てゐるのか。また何故に彼等のみが眞正なる共産主義者にして、且つ社會機關の指導者（農民、カザック、アルメニヤ人の機關においてでさへも）たり得るのか？

四、共産主義とは如何なるものか。實際にそれが社會平等であるならば、ユダヤ人のみがそれを他民族よりも諒解する筈はないではあるまいか？

六、理想と實際とは如何。彼等のモットーは、一方が他を支配せんとする場合に、無智の群を欺く武器にすぎぬではあるまいか？

大正十五年三月十二日印刷
大正十五年三月二十日發行

〔定價金參拾錢〕

著作權所有
不許複製

著述者　久保田榮吉
印刷兼發行者　東京市京橋區日吉町八　田澤久治
印刷所　東京市京橋區日吉町八　日本新聞社

發行所　東京市京橋區日吉町八　日本新聞社
振替東京七二一二四

524
449

終